

不安な者は全員診察

水俣病 一任派 新患者の発見に努力

水俣病患者家庭互助会（山本由会長）の一任派（調停派）が、水俣病の疑いがあるものを拾い上げ、公害被害者認定審査会に認定申請を促進させようと立ち上がった。特にこの際、胎児性水俣病患者の母親たちは、もれなく診察を受けることにしている。

すでに一任派内部での申し合わせは出来ており、患者家庭を中心

に「不安が少しでもある人は診察を受けよう」と呼びかけており、付近住民でも希望者があれば、いっしょに診察を受ける。

水俣市立病院（大橋登院長）とも相談し、すでに十四人が受診し、診断書を作っている。四日には十人、来週に十人が予定されている。

水俣病支援県民会議などが中心になつて進められてきたが「どうしても一任派の人たちは遠慮しがちだった。しかし私たちが呼びかければ、動きやすい人もいるだろう」と思った。受診を申し出ている人たちの中には、水俣病発症当時かなり症状があつたという人も混じっている。胎児性の母親は全部見てもらう」と山本会長は語っている。

る。

診察には市立病院が当たっているが、山本会長の話によると四十人程度になり、患者家庭外の一般

の人も三人含まれている。この診断の結果、疑いのある人たちが、審査会に認定申請することになる。